

参加案内

- 参加費** 全日程参加 5,000 円、2 日参加 4,000 円、1 日参加 2,000 円
 学生 1,000 円 (ただし大会実行委員として参加した場合は無料)
- 昼食** 6 日(日)の昼食(キーマカレーとプリン)については 500 円です。
 ※数量を把握するために事前申込(大会参加申込フォームから)が必要です。
申込方法 「**高生研 2017 静岡大会応募ブログ**」- 18 歳を市民に-」の大会参加申込フォームにて
 申し込んで下さい。 <http://kouseiken.jp/Taikai/> からアクセスできます。
- 保育** 3 歳以上で保育を希望する方は、6 月 30 日までに参加申込フォームに記入して下さい。
- 宿泊** 宿舎は各自でお取りください。
 なお、大会実行委員会が 40 部屋仮押さえしています。
 ここに宿泊を希望される方は、参加申込フォームにご記入下さい。締切は 6 月 30 日です。
 それ以前に埋まれば終了とします。
 (喫煙の区分はご要望に添えない場合もあります)
 ご了承ください

くれたけインプレミアム静岡駅前

(JR 東海道本線・東海道新幹線静岡駅北口より徒歩 3 分)
 料金：シングル 7600 円 (朝食つき)

<高生研大会会場周辺アクセス> 葵生涯学習センター アイセル 21

〒420-0865
 静岡市葵区東草深町 3 番 18 号
 TEL054-246-6191



- 高生研の案内、問い合わせはこちら>
 - 高生研ホームページ <http://kouseiken.jp>
 - 高生研の紹介・大会案内を掲載
- 「**高生研 2017 静岡大会応募ブログ**」- 18 歳を市民に-」 <http://kouseiken.jp/Taikai/>
- 問い合わせ先
 大会実行委員長 久田晴生 (大同大学) e-mail: hello.hisada@nifty.com
 〒455-0075 名古屋港区正徳町 4-62

『18歳を市民に』 高生研 第55回全国大会 2017夏 in 静岡

大会テーマ

「なめられる」教師が教育の新たな地平をひらく

日程

5日(土)	5日 前期準備	9:00~12:30	一般分科会	9:00~12:00	問題別分科会	12:15~13:00	別れの集	13:00	9:00~12:00	問題別分科会	13:30~17:00	一般分科会	13:30~17:00	夕飯	17:30~19:00	交流会	17:30~19:00	夕飯	18:00~20:00	総会
6日(日)	6日 受付	9:00~12:30	一般分科会	9:00~12:00	問題別分科会	12:15~13:00	別れの集	13:00	9:00~12:00	問題別分科会	13:30~17:00	一般分科会	13:30~17:00	夕飯	17:30~19:00	交流会	17:30~19:00	夕飯	18:00~20:00	総会
7日(月)	7日 受付	9:00~12:00	問題別分科会	9:00~12:00	問題別分科会	12:15~13:00	別れの集	13:00	9:00~12:00	問題別分科会	13:30~17:00	一般分科会	13:30~17:00	夕飯	17:30~19:00	交流会	17:30~19:00	夕飯	18:00~20:00	総会

8月5日(土)

- 11:00~12:15
入門講座 生活指導ってなあに?
 生活指導と生徒指導ってどこが違うの? 指導と管理を区別するってどういうこと?
 高生研がこれまで研究してきたことを、実践分析することを通して、具体的に紹介します。
- 久田晴生 (愛知・大同大学)

全体会 開会行事 13:00~13:30

基調討論 13:30~17:00

「なめられる」教師が教育の新たな地平をひらく ~「ケアの倫理」に導かれる自治実践を構想する~

基調発題：前田浪江 (静岡)

『なめられる』教師像から語りおこし、その指導性について実践記録を通して検証し、個別の『ケア』から始まり『自治』に発展する実践を構想する道筋を提示したい。などと堅苦しい文で始まる「基調」ですが、生徒になめられてしまっている、生徒との対話が成り立たない、自治などほど遠い等々、今皆さんが困っていることを持ち寄ってこそ基調が深まります。どうぞこの議論に、当事者としてご参加ください。

主催：全国高校生活指導研究協議会 後援：静岡市教育委員会



20170521 確定版②

一般分科会 8月6日(日)

A午前 9:00~12:30

1. 生徒会「気がつけば、いつの間にか生徒会顧問に」 時原千恵子(千葉)
教員生活37年間、4つの勤務校のうち3校で計16年間生徒会顧問を担当してきた。それぞれ全く異なるタイプの学校ではあったが、指導の理念/目標はいつも同じだった。それは生徒会総務を生徒の代表としてできるだけ大人扱いをすること、生徒会活動を通して生徒が成長することである。

2. HR「ある学級における、学級づくりのあゆみ」 山本美咲(東京)
重い障害を持った生徒がいるクラスで、生徒たちの声を聞き取りながら学級づくりをした歩みである。たくさん声を聞き取りながら、クラスを繋げようと試みたがなかなかうまくいかず苦労の連続であった。行事の時には必ず事件が起こり、その指導に追われる中で、拾い集めた生徒の声を紹介し、どんな糸口があったのか考えたい。

3. HR「したがわせる教育から自他の声に耳をかたむける教育へ」 東山三郎
シメル教育が支配的文脈の学校で、管理の嫌いにまき込まれている自分がいる。しかしシメルことのできない私。なめる生徒たち、反発する生徒たち。強い指導もしてしまっている。HR担任は生徒との関係をどうつくり、市民を育てる教育をどうつくるのか、一緒に考えたい。

4. HR「担任奮闘記～文化祭の出来事を中心に～」 梅原将大(静岡)
長い講師生活を経て、初の公立高校担任。クラス開きに遠足、そして学校祭。ちよとした行事でも事件は起こる。「担任としてどうあるべきか」考え行動する中で、生徒、同僚との人間関係に悩みにまみれ救われる。今まで担任をやってきた貴方も、まだまだの方も、一緒に学ぶ分科会。

5. 部活「初顧問の1年間を振り返る。」 鈴木誠一(大阪)
1年限定で臨んだ教師人生初の中学校。『生徒管理だけでいいから』と言われて試合を見たことすらないバスケットボールの顧問を引き受けた。当初は積極的に関わってこなかったが、それを後悔するようになる事件が次々とおきる。がむしゃらに駆け抜けた1年間を振り返る。

B午後 13:30~17:00

6. 生徒会「スノーフェス～新設”冬の遠足”の取り組み～」 長谷川浩昭(福井)
生徒会が発案した”冬の遠足”。年度途中からの行事新設に挑戦し、全教職員”ゴーサイン”をいかに取り付けられるのか。定時制ならではの”よさ”を活かし、生徒と教職員の信頼関係、生徒同士の話し合いと合意づくりに生徒会は動いた。主権者として要求や願いを実現させていくために何か必要か問いかける分科会。

7. HR「クラスは小さな社会である」 溝口幾子(埼玉)
入学式のクラス開きから解散HRまで、クラスの成長、個の成長を生徒・保護者・教師でつくりあげた。まさにクラスは社会を疑似体験する場ではないのだろうか。様々な山をつくることで通り一遍ではない1年間となった。良い出来事も悪い出来事も全てが学びである。

8. HR「文化祭づくりの中で起きた女子どうしのトラブル」 石田誠一(神奈川)
2年HR…3人の女子生徒をリーダーとした文化祭クラス企画「アジアン風お菓子屋さん」は生徒たちの協働によって、一見成功したかのように思えた。しかし、そこには修学旅行の部屋制と文化祭の装飾をめぐる根深い1人(優香)対3人の女子どうしのトラブルが発生していた。

9. HR「トラブルメーカーY子にHR担任の私が伴走して」 浦和薫(茨城)
「安心して言いたいことが言えるクラスにしよう」と伝えた学級開き。そこで出会った嘘つきで攻撃的なY子。関わりの中で父親に自尊心を傷つけられている背景を知る。嘘つきは傷つきの裏返しだという発見、何もできない私への焦りを経て、何もしないが伴走することで見えてきたこと。

10. 授業「豊太郎って誰?!～「舞姫」から学んだこと～」 西川麻衣(滋賀)
私は学生の時から、国語が好きだった。しかし、学校の授業で何を学んだか、と問われると…。「国語を、学ぶことの面白さをもっと感じ、好きになって欲しい」、そんな思いで教師になった。そんな私の実践報告である。

問題別分科会 8月7日(月) 9:00~12:00

1. 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニングの視点)を どう捉え、向き合うか 子安潤(中部大)、岡村昭弘(三重)、森俊二(埼玉)
学習指導要領改訂によって「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング(A.L)の視点)の導入が推し進められる。A.Lはどのような構想や理念によって提唱されたものなのだろうか。そして我々はこのA.Lに対してどのようなスタンスで向き合えば良いのだろうか。私たち高生研の今までの学びの実践理論と照らして考えたい。

2. いまの学校にもう一つの在り方をひらく 里見実(國學院大學名誉教授)、早川恵子(静岡)、酒田孝(青森)、望月一枝(栃木)
希望と未来の教育学研究者、里見実さんと、生徒を市民とする実践を開いてきた早川さん、酒田さんが問題提起し、参加者と語り合います。どうしたら、学校の同調主義と受動性の分厚い壁を抜け出せるのか。探求する行為として教育を再定義し、もう一つの在り方をひらくことができるのか。

3. 「ケアの倫理」と「コミュニケーション」から実践の課題を探る 内田理(埼玉)
ここ数年の基調発題や実践を題材として「ケアの倫理」「コミュニケーション」をキーワードに、実践の課題を参加者とともに整理・抽出する。竹内常一さんの「新・生活指導の理論」と岡野八代さんの「フェミニズムの政治学」などを手がかりにして、問題を整理したい。

4. 学校の“困っていること”を読み解く～若い先生の実践を手がかりに～ 井沼淳一郎、河堀ちなみ、城塚俊彦(大阪)、他
息苦しい学校を、生徒も教師もどう生き抜いていけばいいのか。生徒との関係で担任自身が「居場所がない」と感じているS先生と、同僚との関係で「自責と他責のあいだ」を揺れてきたK先生の報告を元に、参加者自身の“困っていること”を相対化するワークショップを行う。

交流会 8月5日(土) 17:30~19:00

- ◎基調を読む
- ◎「エバーグリーン」の取り組み(エバーグリーンは県中部の志太・稜原地区の10年以上の平和活動に取り組んできた市民団体です)
- ◎「性の多様性」にかかわる問題(静岡大学における模擬授業の取り組み)

交流会は、参加者が自らの興味関心によりつくるものです。現時点で、上記の3つが確定しています。今後、企画申し込みを受け付けます。ご注目下さい。